

## 第2章 環境学習の目指すもの

### 1 目標

エコビジョンが目指す「より良い環境に恵まれた持続可能な社会」は、将来にわたり、人々が良好な環境のもとで安心して暮らせる社会です。こうした社会の実現には、県民一人ひとりが環境問題に対して関心を持ち、環境の重要性を認識するとともに、自然や生命を尊重する豊かな感性を育てることが重要です。さらには、環境問題の現状やその原因について単に知識として知っているというだけでなく、実際の行動に結び付けていく能力、すなわち、問題を発見し、問題の根本原因を把握するとともに、問題解決のための方法を見出し、必要な技能を身に付け、多くの人と協力して問題を解決する力を育むことが不可欠です。

こうしたことから、本県において環境学習により目指す目標を次のとおり掲げます。

「より良い環境に恵まれた持続可能な社会」の実現に向けて、豊かな感性と問題解決力を身に付け、主体的に行動できる人づくり

### 2 環境学習により目指す人材

この「環境学習の進め方」では、様々な世代の県民一人ひとりが、次のような能力や資質を備えた人材となることを目指します。

#### ①環境への高い関心を持つ人

人間は、生物の一つとして、地球上の他の生物や資源を活用しながら経済的、社会的、文化的な活動を営んでおり、環境から大きな恵みを受けるとともに、私たちの活動が環境に大きな影響を与えています。しかし近年、地域や社会、科学に対する関心の低下や欠如が指摘されており、こうした無関心が環境問題解決の阻害要因の一つと考えられます。

効果的な環境学習を推進することにより、環境が私たちの生存や社会生活の基盤そのものであることの自覚を促し、環境に対する感性を高め、関心を喚起することが重要です。

#### ②環境の現状や環境問題の本質に対する正しい理解を持つ人

私たちを取り巻く環境はかけがえのないものであり、私たち自身の生存に深く

関わっています。

環境の現状や環境問題を冷静かつ客観的な態度でとらえるとともに、その背景や本質を科学的、多面的に理解することができるよう、環境学習により正確な知識や情報を習得し、複雑多岐にわたる環境問題を体系的に理解する能力を身に付けることが重要です。

③実践力、問題解決力を備える人

環境問題に対して必要な知識や情報を身に付けていることは大切ですが、知識だけにとどまらず、自分自身の実際の行動に結びつけたり、他の人々や地域に対する働きかけにつながらなければ意味がありません。

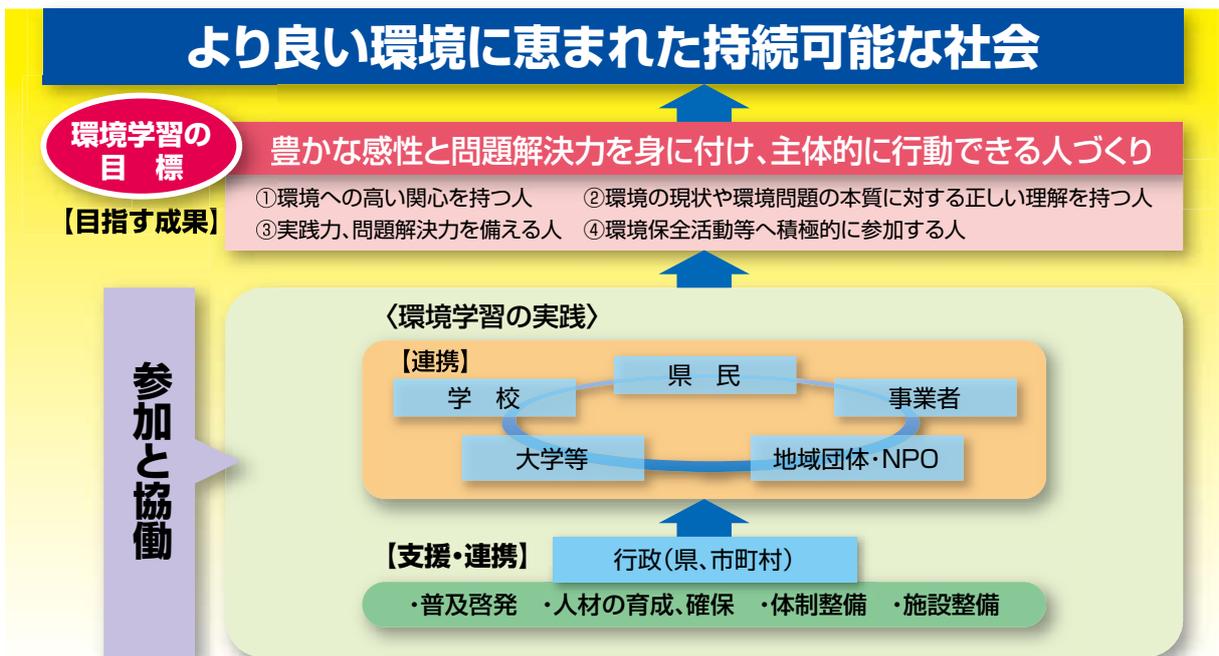
知識や情報の習得に加えて、実際の体験や体感を積み重ねる機会を持つこと等により、問題の発見能力や適切な対応ができる基礎的な技能を身に付けることが必要です。

④環境保全活動等へ積極的に参加する人

環境問題は、社会全体に関わる問題です。従って、他人まかせではなく、私たち一人ひとりが当事者としての意識を持ち、具体的な行動を着実に進めていく必要があります。

また、身近な地域の環境や複雑な環境問題に対しては、関係する人や団体がそれぞれの持つ知識や技能、能力を生かし、協働による取組を進めていく必要があります。環境学習等の推進により、こうした環境の改善や保護に積極的に参加する意欲や態度を獲得し、実践することが重要です。

○「環境学習の進め方」のイメージ図



### 3 ライフステージに応じた環境学習

環境保全は、すべての世代によって担われるべきものです。したがって環境学習も、あらゆる世代を対象として効果的に推進する必要があります。環境への高い関心と正しい理解を持ち、実践力、問題解決力を備え、環境保全活動等へ積極的に参加する人を育てるためには、ライフステージごとの行動が重要です。

この「環境学習の進め方」では、人の生涯を「幼児期」、「児童・生徒期」、「青壮年・ミドル期」、「シニア期」の4期のライフステージに区分し、それぞれの期において必要と考えられる環境学習のあり方を示します。

#### (1) 幼児期

幼児期は、生涯にわたる人間形成の基礎が培われる極めて重要な時期であり、この時期における学習が、その後の人間としての生き方に大きな影響を与える重要なものであることを認識することが大切です。

幼児期における環境の保全に関する意識の形成は、その後の段階的な環境意識の形成に大きな影響を与えるものであり、大人が日常生活の中で物を大切にす「もったいない」の精神を持ち、ごみのポイ捨てを行わないなど、環境に配慮した暮らしを教え、子どもたちがその生活を習慣として身に付けることが大切です。

また、この時期は、生活や遊びの中で身近な自然や動植物など様々なものに触れるなど、体全体で自然や環境に親しむ機会を持つことが重要であり、それらに対する新たな発見や驚き、感動の体験を通して自然の神秘性や生命への畏敬の念や豊かな感性を育み、環境学習の下地を作ることが必要です。

#### 《学習効果》

遊びの中で物の大切さや環境との関わりを学び、身近な自然や動植物などに対する興味、関心が生まれる。

#### (2) 児童・生徒期

児童・生徒期は、生涯にわたる学習の基盤が作られる時期であるため、心身の発達段階に応じた環境学習を行い、環境を重視した持続可能な社会の構築に主体的に参画できる人になるために必要な基本的な資質・能力等を養うことが必要です。

この時期は、各教科、道徳、特別活動及び総合的な学習の時間、それぞれの特

質等に応じ、環境に関する学習が行われるようにすることが必要であり、自然体験や社会体験などの貴重な体験を通して豊かな心を育て、自然に対する畏敬の念を深めるとともに、環境問題について科学的理解を踏まえた知識を習得させることが大切です。

自然に関する実験や観察など体験学習を中心とした環境学習を進め、自分たちと周りの環境との関わりから、自然や社会全体の仕組みを理解するという点に重きを置いた環境学習を行うことが必要です。

また、環境問題を理論的に学ぶとともに、環境に関する国際的な情報を収集したり、地球規模での環境問題について理解を深めるなど、環境問題に関して幅広い視点を持つことが重要です。

さらに、環境問題の歴史や地域文化・伝承から未来に向けて行動すべき方向を学び、環境保護・保全に対して自分の意見を持ち、意思表示ができるようになり、環境保全活動への参加の機会を与えられることが必要です。

#### 《学習効果》

自然体験や社会体験を通じて、科学的なものの見方や考え方を獲得するとともに、教育活動全体の中で環境問題について総合的に考え、問題解決のために積極的に行動する能力が身につく。

### (3) 青壮年・ミドル期

青壮年・ミドル期は、進学や就職、家庭を持つなど社会に出て、あるいは社会の中心となって活躍している時期です。

この時期は、環境問題の主要な担い手としてその解決に向けて主体的に関わり、環境保全活動を実践するとともに、次世代に対する環境学習にも大きな役割を担っています。

それぞれの社会生活に合わせて、専門課程やボランティア体験、インターンシップ、国際協力・交流活動、国際理解などを通じて環境について積極的に学ぶよう努めるとともに、それまでの環境学習の成果を日常生活に生かして、新しいライフスタイルとしてのエコライフの構築に積極的に取り組むことが必要です。

家庭にあっては、リサイクルや省エネルギー等の環境に配慮した生活に取り組む姿を子どもたちに見せることで、また子どもたちが学校等で学んだ事柄を家族ぐるみで実践することで、エコライフスタイルの推進を図ることが必要です。

地域においては、環境保全活動に積極的に参画し、シニア世代から様々な知恵

を学ぶとともに、その時々々の社会潮流、環境課題を踏まえ、積極的に活動を実践していくことが必要です。また、職場においては、自らの仕事の専門性と環境についての関わりを学びながら、環境マネジメントシステム、グリーン購入等、事業所等における環境配慮の取組に率先して参加することが大切です。

#### 《学習効果》

社会生活における環境問題解決に向けて積極的に実践行動する力、次世代への環境学習を担う力が身につく。

### (4) シニア期

シニア期は、多くが第一線を退き、これまでの人生経験を通して培った環境に関する知識や能力を地域や次世代へ還元することが可能な時期です。高齢者が日常生活を通じて、昔から受け継がれてきた節約の精神や環境との共生に配慮した生活の知恵、地域美化活動の習慣等を次世代に積極的に伝えることが必要です。

また、知恵や習慣を伝えるだけでなく、地域の美化活動、森林ボランティア活動や里山保全活動、自然観察などの環境保全活動を指導者としてリードし、地域の自然環境や景観を守り、継承していくことが大切です。

さらに、環境問題は近年新しいテーマも発生しており、最新の課題などについて継続して学ぶ必要もあり、また、今日高まっている高齢者の学習意欲に応えるためにも、地域社会における環境学習の機会を充実させることが必要です。

#### 《学習効果》

豊富な経験を生かした生活の知恵を地域へ還元し、次世代へ継承することができる。



